名古屋大学東洋史研究報告　四十七号　二〇二三年三月発行

批評と紹介

新出北魏墓誌目録

大知聖子

北魏研究において新出土史料である墓誌の重要性については言を俟たない。しかし、毎年陸続と出版される図録や発掘調査報告を常に網羅的に収集し、墓誌の写真・拓本・釈文の正確な情報を確認し続ける作業は負担が大きく困難を伴う。そのような状況下で梶山智史『北朝隋代墓誌所在総合目録』（汲古書院、二〇一三年。以下『梶山目録』と称す。同書を用いて墓誌の所在を示す場合【梶山目録＋墓誌番号】と記す）が出版され、北朝隋代墓誌を利用した研究の基礎が築かれた。ただし、その目録も出版後十年ほど経過し、その間、さらに多くの新出墓誌が増加した。その増加分については各研究者が個人的に所在を把握する状態であったが、近年、王連龍『南北朝墓誌集成』（上海人民出版社、二〇二一年。以下、『南北朝』と称す）が出版され、『梶山目録』以降の南北朝墓誌の所在を増補する存在となっている。ただし、後の史料紹介にて詳述するが、この図書は目録形式とはなっておらず、一見するだけではどれが『梶山目録』未掲載墓誌か判読し難い。

本稿では以上の状況をふまえ、『梶山目録』以降の新出北魏墓誌の所在について、『南北朝』未掲載の墓誌も含め九七点を目録形式にて掲載する。さらに『梶山目録』未掲載の主要な北魏墓誌の図書については【北魏墓誌史料】にてその特徴を簡単に紹介する。

なお、今回追加された北魏墓誌目録掲載の被葬者およびその縁者には中には、北魏史上かなり有名かつ重要な人物が散見される。これらの墓誌については注目度が高いと思われるため、特に重要な四人について紹介したい。

①元憘（咸陽王）…No.14「元禧妾申屠氏墓誌」

「維大魏景明元年歳次庚辰二月辛未朔廿八日戊戌、侍中・太尉公・咸陽王貴妾申屠氏之墓銘」とのみ記す短い墓誌である。王連龍『新見北朝墓誌集釈』（中国書籍出版社、二〇一三年）十二頁にて咸陽王愔および妾の申屠氏について詳細に検討している。

②元愉（京兆王・後に臨洮王を追封）…№46「元愉妃楊奥妃（婉瀴）墓誌」

大同北朝芸術研究院編著『北朝芸術研究院蔵品図録　墓誌』（文物出版社、二〇一六年）所収の殷憲「北朝芸術研究院蔵北朝墓誌的史学和書学価値」一三～一四頁および楊璐瑶『北朝芸術研究院蔵墓誌整理与研究』（山西大学碩士論文、二〇一九年）二四～二五頁にて詳細に検討する。これらの研究によると、楊奥妃は『魏書』巻二二、孝文五王列伝、京兆王愉伝に、「世宗為納順皇后妹為妃、而不見禮答。愉在徐州、納妾李氏、本姓楊、東郡人、夜聞其歌、悅之、遂被寵嬖。罷州還京、欲進貴之、託右中郎將趙郡李恃顯為之養父、就之禮逆、産子寶月。順皇后召李入宮、毀擊之、強令為尼於内、以子付妃養之。歳餘、后父于勁、以后久無所誕、乃上表勸廣嬪侍。因令后歸李於愉、舊愛更甚。」とあるが、墓誌では「恒農華陰人也」とし、出自を漢人名族の弘農楊氏に仮託していることを指摘する。

次に、この墓誌は正光四（523）年四月二九日紀年、「魏故臨洮王妃楊氏墓誌銘」と題するが、『魏書』巻九、粛宗孝明帝紀によると元愉が臨洮王を追封されたのは正光四年二月壬辰であり、墓誌と正史の記載に矛盾は無いことを指摘する。

最後に、墓誌には子の四男一女の名前と年齢が記されており、正史の記載を補うことができるだけでなく、第三子の宝炬が西魏の文帝であるなど、西魏の政治史研究に対しても裨益すること大であることを指摘する。

なお板橋暁子「魏晋南北朝時代の「以妾爲妻」「以妻爲妾」について」（『東アジアの家族とセクシュアリティ：規範と逸脱』、京都大学学術出版会、二〇二二年）においても、北魏における妾の研究という観点から楊奥妃に注目するが、その際に使用した史料は前述した『魏書』および子の元宝月墓誌【梶山目録３５０】のみであり、当該墓誌について言及していない。

また関連墓誌に、№18「王曇慈墓誌」があり、墓主が京兆王愉の育母であることが判明する。

③城陽宣王元忠…№16「城陽宣王元忠及妻司馬妙玉墓誌」

この墓誌で問題となるのは元忠が城陽王と記されている点である。なぜなら『魏書』巻十五、昭成子孫列伝、常山王遵

伝附忠に、「陪斤弟忠、字仙徳。少沈厚、以忠謹聞。高祖時、累遷右僕射、賜爵城陽公、加侍中、鎮西將軍、有翼贊之勤、百僚咸敬之。太和四年、病篤辭退、養疾於高柳。輿駕親送都門之外、賜雜綵二百匹、群僚侍臣執別者、莫不涕泣。及卒、皆悼惜之。謚曰宣、命有司為立碑銘。有十七子。」とあり、城陽公のまま死去しているからである。そこで参考になるのが元忠のひ孫に該当する元偉の伝である。『周書』巻三八、元偉伝に「元偉字猷道、河南洛陽人也。魏昭成之後。曾祖忠、尚書左僕射、城陽王。」とあり、これ付せられた中華書局本の校勘に「據北史元忠未封王、同巻高涼王孤附曾孫那傳云、「高祖時、諸王非太祖子孫者例降爵爲公。」元忠是昭成之後、一般不得封王。但八瓊室金石補正巻二七太僕元公墓誌銘稱「曾祖忠、城陽宣王」、或是西魏追贈。」とある。今注本二十四史『周書』（中国社会科学出版社、二〇二〇年）もこの校勘を「是也」とする。なお近年発行された点校本二十四史修訂本『同書』（中華書局、二〇二二年）においても同様の校勘が付されたままとなっている。ここで言及される墓誌は隋の大業十一（６１５）年八月二十四日紀年の「元智墓誌」【梶山目録１８２１】である。校勘では西魏における元忠への王爵の追贈を想定しているが、その前提となっているのが、彼が孝文帝の爵制改革において王爵の対象外となった道武帝より前の子孫（諸帝子孫）に該当する点である。しかし、この王爵を宗室のみに限定する例降が実施されたのは太和十六（４９２）年であり、元忠が死去したのはそれより前の太和四（４８０）年であるため、校勘の「一般不得封王」という指摘は当たらない。従って『魏書』では公爵となっているがそれは記載の誤りであり、実は王爵を賜与されていた可能性が考えられる。なぜなら、この『魏書』巻十五は補巻であり、記載に遺漏や錯誤が多く、たとえば中華書局本の校勘によれば同伝の「忠子暉」という記載は「忠從子暉」もしくは「（忠の弟）德子暉」の誤りだと指摘する。なお元暉墓誌【梶山目録２２３】では「父冀州刺史、河間簡公」とあり、元德の子であることが明記されているが、同伝では「忠弟德、封河間公、卒於鎮南將軍、贈曹州刺史。」とあるため、贈官の記載については異なっている。また先行研究では、大同北朝芸術研究院編著『北朝芸術研究院蔵品図録　墓誌』（文物出版社、二〇一六年）所収の殷憲「北朝芸術研究院蔵北朝墓誌的史学和書学価値」一二～一三頁において、当該墓誌が王爵であることからむしろ『魏書』の記載を改め王とするべきと指摘する。なお（清）瞿中溶撰『古泉山館金石文編残稿』巻一も、「元智墓誌」の「曾祖

忠、城陽宣王」という記載を元に『魏書』を改め王とするべきという立場を取る。確かに元忠の祖父遵と父素も常山王であり、例降までは王爵が続く家系であるため、忠が王であっても不自然ではない。

ただし、元忠が王爵であった場合、『魏書』同伝では子の盛が襲爵しているので、彼が例降にて公爵になる筈であるが、その記載は無い。しかし、『周書』巻三八、元偉伝は「祖盛、通直散騎常侍・城陽公」とあるので、これも『魏書』に遺漏があり、実は例降が実施された可能性も考えられる。一方、『北史』巻十五、魏諸宗室、常山王遵伝によれば、忠は城陽公であり、盛は襲爵して卒し、子の懋が「襲爵、降為侯」と例降の対象となっている。『北史』の記載に従えば、盛は公爵を継いだ後、例降が実施される前に死亡したことになる。元盛や元懋については他に記載がなく、本人に関連する石刻史料も無いため、現段階ではこれ以上の詳細は不明である。

また、当該墓誌および『周書』と隋代「元智墓誌」が元忠を王爵と記すのは、生前の賜与ではなく死後贈爵の可能性もあるが、その点についても他に記載が無いので判別し難い。

このような正史と石刻史料における爵位の記載の違いについて、参考となる事例を三例示したい。まず、諸帝子孫の元萇は、『魏書』巻十四、高涼王孤伝附萇に、「孤孫度、太祖初賜爵松滋侯、位比部尚書。卒。…子乙斤、襲爵襄陽侯。…子平、字楚國、襲世爵松滋侯。以軍功賜爵陵男。卒。子萇、高祖時、襲爵松滋侯、例降侯、賜爵陵伯…卒、謚曰成。」とあるが、延昌年間（512～515）の石刻史料「元萇温泉頌」（『金石萃編』巻二八）の題は萇を松滋公とする。また熙平二（517）年二月二十九日の元萇墓誌【梶山目録179】は「襄陽公之孫…松滋公之世子…皇興二年…襲爵松滋公…謚曰成公」とあり、祖父乙斤と父平と本人がすべて公爵となっている。また延昌三（514）年十一月四日紀年の元珍墓誌【梶山目録145】も「征南將軍・肆州刺史・襄陽公之孫、輔國將軍・幽州刺史・松茲（ママ）（滋）公之子也」とあり、公爵と記す。『魏書』巻十四も補巻であることから、本来は親子三代にわたり公爵であった可能性も考えられる。ただし、普泰元（531）年八月十一日紀年の元天穆墓誌【梶山目録491】では「太子瞻（ママ）（詹）事・使持節・左將軍・肆州刺史・襄陽景侯之孫。」とし、乙斤を侯爵とする。このことから**漢魏六朝WEB**の注は「（元珍墓）誌以〝公〟為尊稱、非謂公爵。」とするが、尊称と解釈できる根拠は示されていない。また劉軍「北魏元萇墓誌補釈探究」（『鄭州大学学報（哲学社会科学版）』第四六巻第五

期、二〇一三年）では『魏書』において侯・子・男爵が死後に「謚曰某公」とされた事例から、当該墓誌における公爵も尊称であるとする。ただし、劉氏が示す尊称は死後に「（地名なし）謚号＋公」と表記されるパターンに限定されるが、当該墓誌では「松滋（地名）＋公」という表記であり、しかも銘文には生前に公爵を襲ったと明記されているため、尊称とは解釈し難いと思われる。何れにせよ、『魏書』では侯爵とするが、石刻史料では公爵とする場合が複数みられたという事実は指摘できよう。次に、北族八姓の穆亮は『魏書』巻二七によると長楽王から例降により公爵に降格された。石刻史料では、太和十八（494）年十一月の「孝文皇帝弔殷比干墓文」（『金石萃編』巻二七）では「長楽公丘目陵（＝穆）亮」と記載するのに対し、太和十九（495）年十一月の「邱穆陵亮夫人題記」（『金石補正』巻十二）では「長楽王邱穆陵（＝穆）亮」と記載し、造像銘では王となっている。なお『魏書』によれば太和二十一（497）年の穆泰の反乱に関連して亮は頓丘郡開国公となったが、本人墓誌の穆亮墓誌【梶山目録53】も『魏書』と同様の頓丘郡開国公となっている。最後に、北族八姓の尉元は『魏書』巻五十によれば例降により淮陽王から山陽郡開国公に降格され、太和十七（493）年七月に死去し、景桓公と謚されている。石刻史料では正光四（523）年三月二三日紀年の「元霊曜墓誌」【梶山目録282】に「夫人河南尉氏、祖元、司徒淮陽景桓王」とあり、墓誌では淮陽王とする。このように石刻史料では『魏書』より高い爵位を称した事例が複数あるが、これらの石刻史料はすべて偽刻ではない。以上の検討から、当該墓誌が『魏書』と異なり王爵と記載していることを根拠に偽刻と判断することはできないと言えよう。

なお薛娟「北魏《拓跋忠暨妃司馬妙玉墓誌》研究」（山西大学碩士学位論文、二〇一八年）が当該墓誌について詳細に検討しているが、王爵の問題については先述した先行研究を引くのみで自身では特に検討していない。

④薛真度…№67「薛真度妻孫羅穀墓誌」

梶山智史「稀見北朝墓誌輯録（三）」（『東アジア石刻研究』第七号、明治大学東アジア石刻文物研究所、二〇一七年）では録文および著録先を示すのみで内容については検討しておらず、管見の及ぶ限り専論も見つからないため、本稿にて重要な点について紹介したい。

当該墓誌は「魏故左光禄大夫・雍州刺史・庄公・敷西県開国公、薛真度妻孫氏墓誌銘」と題する。『魏書』巻六一、薛

安都伝附真度によると、「太和初、賜爵河北侯、加安遠將軍、為鎮遠將軍、平州刺史、假陽平公。後降侯為伯…改封臨晉縣開國公…除金紫光祿大夫、加散騎常侍、又改封敷西縣。永平中卒、年七十四。賻帛四百匹、朝服一襲、贈左光祿大夫、常侍如故、謚曰莊。」とあるので、左光祿大夫と敷西県開国公は合致する。しかし、天統四（５６８）年十二月二十三日紀年の薛懷儁墓誌【梶山目録８８８】では、「父真度、東西二荊豫華陽五州刺史、金紫光祿大夫、陽平公、贈征西將軍、并雍二州刺史、謚曰莊公」とし、『魏書』では仮爵であった陽平公を正爵として記し、死後贈官も合致していない。

同伝では妻や妾の名は記されていないが、当該墓誌により揚州呉郡の孫氏と姻戚関係があったことが判明する。さらに同伝に「…有子十二人。…真度諸子既多、其母非一、同産相朋、因有憎愛。興和中、遂致訴列、云以毒藥相害、顯在公府、發揚疵釁。時人耻焉。」とあり、個々の名が判明する真度の子は嫡子の懷徹、庶長子の懷吉・懷直・懷朴・懷景・懷儁の六人である。当該墓誌では孫氏が生んだ懷直・懷文・懷朴・懷式・懷及・懷遠の六人の名と官職を記す。傍線を付した人物は『魏書』に未掲載であり、正史と墓誌の情報を合わせ十人の子の名が判明することとなった。なお天統四（５６８）年十二月二十三日紀年の薛懷儁妻皇甫豔墓誌【梶山目録８８９】は「娣姒實多」と記し、**漢魏六朝ＷＥＢ**の注では『魏書』の記載と合致することを指摘する。

また関連墓誌に、№59「薛懷吉墓誌」があり、墓主は真度の庶長子である。ここでは父真度の官職や爵位および生母については記されていない。

【凡例】

1. 本目録は『梶山目録』未掲載の北魏（３８６～５３４年）墓誌を埋葬された年代順に配列する。
2. 本目録の番号・『南北朝』の番号・墓誌銘・埋葬年月日・西暦・著録・出土場所を記す。
3. 『南北朝』に掲載されている墓誌については『南北朝』の番号を示し、未掲載の場合のみ著録先を記す。ただし『南北朝』にて著録先の情報が抜け落ちている場合は補う。
4. 著録の略称に続く数字は、図録に各墓誌のナンバーが付されている場合にはその数字を、ナンバーが無い場合は頁数を示す。
5. 墓誌銘の冒頭部分に偽刻?と記されている場合は、他の図録や報告書では真刻の扱いだが『南北朝』のみ偽刻とする墓誌銘である。

No.	南北朝	墓誌銘	埋葬年月日（紀年）	西暦	著録	出土場所
1	4	破多羅氏殯誌	太延元年八月	435		山西大同
2	6	韓弩真妻王億轡墓誌	興安三年正月二十六日	454		山西大同
3	7	解興墓誌	太安四年四月六日	458		山西大同
4	なし	乙弗莫瓌墓誌	太安四年四月二十一日	458	梶山2022	山西応県 or 臨汾
5	9	毛徳祖妻張智朗墓誌	和平元年七月二十五日	460		山西大同
6	10	梁拔胡墓誌	和平元年二年三月十五日	460		山西大同
7	なし	黄鑒墓誌	皇興三年五月二十五日	469	梶山2022	北京市房山区
8	14	韓猛妻媛馬墓銘	皇興三年十月二十日	469		河南洛陽
9	15	韓受洛拔妻邢合姜墓誌	皇興三年十二月十四日	469		山西大同
10	17	謝過酋念妻大沮渠樹舄墓誌	延興四年三月十一日	474		山西大同
11	なし	賈宝銘	太和元年十月十日	477	「山西大同北魏賈宝墓発掘簡報」（『文物』2021年第６期）	山西大同
12	24	孫惲墓誌	太和五年六月四日	481		山西大同
13	29	将奴磚誌	太和九年	485		河南洛陽
14	52	元禧妾申屠氏墓誌	景明元年二月二十八日	500		不明
15	なし	王彤墓誌	景明四年三月	503	「新見北魏《王彤墓誌》《封園姫墓誌》跋」（『書法』2019年第８期）	河南洛陽
16	68	城陽宣王元忠及妻司馬妙玉墓誌	景明五年十一月六日	504		山西大同
17	71	王遇墓誌	正始元年十月二十四日	504		河南洛陽
18	なし	王曇慈墓誌	正始二年？月二十七日	505	「洛陽定鼎北路北魏王曇慈墓発掘簡報」（『華夏考古』2022年第１期）	河南洛陽
19	なし	江文遥母呉夫人墓誌	正始四年正月十九日	507	字里千秋１～３頁	河南洛陽
20	96	姫通墓誌	正始五年三月中旬	508		陝西西安

No.	南北朝	墓誌銘	埋葬年月日（紀年）	西暦	著録	出土場所
21	106	孫桃史磚誌	永平二年四月	509		河南洛陽
22	104	彭成興墓誌	永平二年三月二十九日	509		陝西麟遊
23	なし	楊鈎墓誌	永平四年十一月十七日	511	梶山2022	陝西華陰
24	なし	楊安徳墓誌	永平四年十一月十七日	511	梶山2022	陝西華陰
25	124	楊老寿墓誌銘	永平四年十一月十七日	511		河南洛陽
26	145	張永墓誌	延昌二年十月二十八日	513		陝西西安
27	なし	李弼妻古鄭氏墓誌銘	延昌三年十二月二十九日	514	賛皇36頁・図版51	河北賛皇
28	なし	戴双受墓誌	熙平元年二月二十四日	516	梶山2022	寧夏固原
29	191	閔道生墓誌	熙平元年十一月二十二日	516		不明
30	193	蘭幼樹墓誌	熙平元年十一月二十二日	516		河南洛陽
31	なし	呉翼墓誌	熙平三年二月十日	518	洛陽百品２	河南洛陽
32	216	卓呉仁妻蘇阿女墓誌	神龜元年四月二十四日	518		河南洛陽
33	なし	胡康墓誌	神龜元年十月九日	518	北朝精粋北魏６	不明
34	230	李叔胤妻崔賓媛墓誌	神龜二年四月十二日	519		河北賛皇
35	なし	張稚墓誌	神亀二年十月二十七日	519	西南大学002、秦晋三編56、漢魏六朝 WEB	河南洛陽
36	247	張弁墓誌	神龜三年十一月十五日	520		不明
37	なし	王曦墓誌	正光元年十一月十四日	520	梶山2019、中国歴代1-157、北朝精粋北魏５	河南洛陽
38	なし	邴勖墓誌	正光元年十二月二十一日	520	楊宝霞・何山「北魏《邴勖墓誌》釈文校補」（『保定学院学報』第34巻第２期、2021年）	河南洛陽
39	278	王寿徳墓誌	正光二年十一月十五日	521		河南洛陽
40	280	程暐墓誌	正光二年十一月二十六日	521		河南洛陽

No.	南北朝	墓誌銘	埋葬年月日（紀年）	西暦	著録	出土場所
41	なし	張君墓誌	正光二年	521	中国歴代1-172	河南洛陽
42	なし	田寧陵墓銘文磚	正光二年	521	「安徽淮南錢郢孜北朝墓発掘報告」『文物』2022年第４期	安徽淮南
43	293	賀拔墓誌銘	正光四年二月十五日	523		河南洛陽
44	なし	緱顥墓誌	正光四年二月十五日	523	北朝精粋北魏１	不明
45	なし	左文暢墓誌	正光四年三月二十九日	523	洛陽百品３	河南洛陽
46	306	元愉妃楊奥妃（婉瀴）墓誌	正光四年四月二十九日	523	秦晋三編59	山西大同？
47	309	趙碑墓誌	正光四年八月三日卒	523		河南洛陽
48	なし	歩寿墓誌	正光四年十月二日	523	北朝精粋北魏４	山東
49	317	王遵墓誌	正光四年十一月二十七日	523		陝西西安
50	なし	封園姫墓誌	正光四年十一月二十七日	523	「新見北魏《王彤墓誌》《封園姫墓誌》跋」（『書法』2019年第８期）	河南洛陽
51	330	偽刻？王節墓誌	正光五年五月十二日	524		河南洛陽
52	337	趙昞墓誌	正光五年八月四日	524		河南洛陽
53	なし	席詢墓誌	正光五年八月六日	524	洛陽百品４	河南洛陽
54	351	偽刻？韓虎墓誌	正光五年十一月十四日	524		河南孟津
55	354	杜祖悦墓誌	正光五年十一月	524		陝西西安
56	383	元遵墓誌銘	孝昌元年十一月二十日	525		河南洛陽
57	375	劇逸墓誌	孝昌元年十一月二十日	525		不明
58	なし	宇文悦墓誌	孝昌二年十一月二十五日	526	北朝精粋北魏５	河南洛陽
59	なし	薛懐吉墓誌	孝昌二年閏十一月十九日	526	北朝精粋北魏６	山西万栄
60	なし	封之秉墓誌	孝昌二年閏十一月十九日	526	字里千秋10～13頁、洛陽百品５、北朝精粋５	河南洛陽

No.	南北朝	墓誌銘	埋葬年月日（紀年）	西暦	著録	出土場所
61	424	李劌墓誌	孝昌二年十二月十二日	526		河南孟津
62	なし	賀牧及夫人侯氏墓誌	孝昌二年十二月二十七日	526	北大続編110、秦晋三編63、北朝精粋北魏５	河南洛陽
63	427	郭崇墓誌	孝昌三年正月二十日	527		河南洛陽
64	なし	宇文及夫人房氏墓誌	孝昌三年二月二日	527	秦晋三編64	河南洛陽
65	458	偽刻？路寧墓誌	武泰元年三月十六日	528		陝西西安
66	なし	直顕墓誌	建義元年七月十八日	528	中国歴代２-112	河南洛陽
67	486	薛真度妻孫羅穀墓誌	建義元年八月二十三日	528		山西万栄
68	487	元顕墓誌	建義元年八月二十四日	528		河南洛陽
69	491	劉安國磚誌	建義元年九月十日	528		河南三門峡
70	なし	曹連墓誌	永安元年十月十三日	528	秦晋三編65、蔵石014、曹連	河南洛陽
71	495	陳隆墓誌	永安元年十月二十五日	528		不明
72	494	王導墓誌	永安元年十月二十二日	528		河南鄭州
73	なし	奚融墓誌	永安元年十一月三十日	528	秦晋三編67	河南洛陽
74	519	張［王＋質］墓誌	永安二年十一月十五日	529		山西大同？
75	522	韋鮮玉墓誌	永安二年十二月十四日	529		陝西西安
76	なし	元祉墓誌銘	永安三年二月十四日	530	梶山2019、秦晋三編68、河南散存182、蔵石017	河南洛陽
77	なし	元泰墓誌	永安三年二月十四日	530	洛陽百品６、「洛陽新出北魏元泰墓誌考釈」（『文物研究』2019年第５期）	河南洛陽
78	547	道仁磚誌	普泰二年閏□月十八日	532		河南三門峡
79	548	張洛磚誌	太昌元年六月二十一日	532		河南三門峡

No.	南北朝	墓誌銘	埋葬年月日（紀年）	西暦	著録	出土場所
80	556	元禹墓誌	太昌元年十一月十九日	532		河南洛陽
81	なし	楊思善墓誌	太昌元年十一月十九日	532	梶山2022	陝西華陰
82	なし	楊広墓誌	太昌元年十一月十九日	532	梶山2022	陝西華陰
83	なし	楊地伯墓誌	太昌元年十一月十九日	532	梶山2022	陝西華陰
84	なし	楊孝瑜墓誌	太昌元年十一月十九日	532	梶山2022	陝西華陰
85	なし	楊孝楨墓誌	太昌元年十一月十九日	532	梶山2022	陝西華陰
86	なし	楊厳墓誌	太昌元年十一月十九日	532	梶山2022	陝西華陰
87	なし	楊子謐墓誌	太昌元年十一月十九日	532	梶山2022	陝西華陰
88	なし	楊子諧墓誌	太昌元年十一月十九日	532	梶山2022	陝西華陰
89	なし	楊子誦墓誌	太昌元年十一月十九日	532	梶山2022	陝西華陰
90	なし	楊測墓誌	太昌元年十一月十九日	532	梶山2022、北朝精粋北魏７	陝西華陰
91	576	楊彦墓誌	太昌元年十一月十九日	532		陝西華陰
92	580	賈金宝墓誌	太昌元年	532		不明
93	なし	□孫墓誌銘	永熙二年二月二十六日	533	蔵石015	河南洛陽
94	なし	尹平墓誌	永熙二年十二月七日	533	「河南滎陽豫龍鎮北魏尹平墓発掘簡報」（『考古』2022年第３期）、鄭州金石16	河南鄭州
95	595	辛璞墓誌	永熙三年正月十二日	534		陝西西安
96	596	長孫遐妻王墓誌	永熙三年正月十四日	534		河南洛陽
97	598	尉州墓誌	永熙三年正月二十六日	534		山西大同？

【北魏墓誌史料】中文

○王連龍『新見北朝墓誌集釈』（中国書籍出版社、二〇一三年）

○陳爽『出土墓誌所見中古譜牒研究』（学林出版社、二〇一五年）

○趙文成・趙君平編『秦晋豫新出土墓誌蒐佚続編』（国家図書館出版社、二〇一五年）

○中国文物研究所等編『新中国出土墓誌』陝西三（文物出版社、二〇一五年）

○大同北朝芸術研究院編著『北朝芸術研究院蔵品図録　墓誌』（文物出版社、二〇一六年）

○胡戟『珍稀墓誌百品』（陝西師範大学出版社、二〇一六年）

○葉煒・劉秀峰主編『墨香閣蔵北朝墓誌』（上海古籍出版社、二〇一六年）

○斉運通・楊建鋒編『洛陽新獲墓誌（2015）』（中華書局、二〇一七年）

○中国国家博物館編『中国国家博物館館蔵文物研究叢書・墓誌巻』（上海古籍出版社、二〇一七年）

○陝西歴史博物館編『風引薤歌：陝西歴史博物館蔵墓誌萃編』（陝西師範大学出版社、二〇一七年）

○斉運通・趙力光主編『北朝墓志百品』（中華書局、二〇一八年）

○楊勇『字里千秋：新出中古墓誌賞読』（江西美術出版社、二〇一八年）**略称：字里千秋**

『梶山目録』未掲載の墓誌が多い。拓本は全体写真と併せて文字の拡大写真もあり見やすい。釈文だけではなく墓誌の背景なども考証しており有用である。埋葬年月日が北魏の墓誌は五方のみの収録である。

○毛遠明編著『西南大学新蔵墓誌集釈』（鳳凰出版社、二〇一八年）**略称：西南大学**

北魏墓誌は四方のみの収録である。すべての墓誌に対して拓本の全体写真・釈文・注釈を載せる。

○北京大学図書館金石組編『1996-2017北京大学図書館新蔵金石拓本菁華・続編』（北京大学出版社、二〇一八年）**略称：北大続編**

○司馬国紅・顧雪軍編著『洛陽北魏曹連石棺墓』（科学出版社、二〇一九年）**略称：曹連**

○陳朝雲『河南散存散見及新穫漢唐碑志整理研究』（科学出版社、二〇一九年）**略称：河南散存**

○毛遠明・李海峰編著『西南大学新藏石刻拓本彙釈』（中華書

局、二〇一九年）

墓誌だけではなく造像記も収録する。

○余扶危・郭茂育主編『中国歴代墓誌全集』北魏巻一・二（中州古籍出版社、二〇一九年）**略称：中国歴代**

拓本と釈文を掲載するが、釈文にかなり間違いが多い。また、明らかに偽刻である墓誌が特に注釈もなく真刻と同列に掲載している場合が何点かあるため、注意が必要である。

○張永華・趙文成等編『秦晋豫新出土墓誌蒐佚三編』（国家図書館出版社、二〇二〇年）**略称：秦晋三編**

○斉運通撰『洛陽新獲墓誌百品』（国家図書館出版社、二〇二〇年）**略称：洛陽百品**

○洛陽市文物考古研究院編『洛陽市文物考古研究院蔵石集粹墓誌篇』（中州古籍出版社、二〇二〇年）**略称：蔵石**

○北京大学考古文博学院・河北省文物考古研究院編著『賛皇西高北朝趙郡李氏家族墓地：2009-2010年北区発掘報告』（科学出版社、二〇二一年）**略称：賛皇**

○王連龍『南北朝墓誌集成』（上海人民出版社、二〇二一年）**略称：南北朝**

拓本や原石の写真は無いが、釈文を掲載し、文字の異同を注釈にて示す労作である。ただし、文字の異同があるにも関わらず注釈が無い場合も散見され、また時々誤字もあるので、完成度にはやや難がある。また本書が偽刻とするものの中には他の図録や報告書では真刻として扱われている墓誌があるが、偽刻とする根拠が示されていないため、判断に迷う場合がある。北魏墓誌については六〇五方収録し、『梶山目録』の五五六方より増加しているが、これは偽刻を含んだ数字となっている。そのうえ、『梶山目録』に収録済みの墓誌であるにも関わらず、本書では未収録の場合があり、前言において何を基準に墓誌の取捨選択をしているのか明言されていない。また、その後発表された王連龍「私と『南北朝墓誌集成』」（『東アジア石刻研究』第九号、二〇二二年）においても「疑偽」と注記した根拠や収録の基準については言及されていない。

○上海書画出版社編『北朝墓誌精粋』第一輯・第二輯　北魏巻（上海書画出版社、二〇二一年）**略称：北朝精粋**

『梶山目録』未収録の墓誌の拓本を多く載せる。拓本の全体写真と部分拡大写真はあるが、釈文は無い。

○中国文物研究所等編『新中国出土墓誌』陝西四（文物出版社、二〇二一年）

○鄭州地方史誌辦公室編著『鄭州金石誌・北魏編』（中国水利水電出版社、二〇二一年）**略称：鄭州金石**

○漢魏六朝碑刻数拠庫（毛遠明教授遺著《漢魏六朝碑刻集釋》）
略称：漢魏六朝ＷＥＢ
毛遠明『漢魏六朝碑刻校注』（線装書局、二〇〇八年）の増補版。詳細は大知聖子「中国・石刻史料のデータベース紹介」（『人文情報学月報』一〇七号、二〇二〇年）参照。
【北魏墓誌史料】日文
○梶山智史「稀見北朝墓誌輯録（四）・（五）」（『東アジア石刻研究』第八・九号、明治大学東アジア石刻文物研究所、二〇一九・二〇二二年）**略称：梶山２０１９・梶山２０２２**

【付記】本稿は文部科学省科学研究費補助金（若手研究・２０Ｋ１３２０９および基盤研究Ｃ・２０Ｋ０１０１７　代表者：小林聡）および名城大学総合研究所研究成果展開事業費による研究成果の一部である。

（おおち　せいこ　名城大学理工学部教養教育准教授）